

令和 3 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	4	学 校 名	茨城県立日立第二高等学校					課 程	全日制	学校長名	鈴木 正人					
教 頭 名	宮田 幹久									事務長名	鈴木 透					
教職員数	教諭	33	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	9 含ALT	実習教諭	1	事務職員	3	技術職員等	3	計	56
生 徒 数	小学校	1 年		2 年		3 年		4 年		合 計		クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	0	1 1 3	0	1 6 1	0	1 5 1	0	0	0	4 2 5	1 3				

2 目指す学校像

創立以来、9 4 年に及ぶ女子教育の歴史と伝統の上に立ち、変化してゆく現代社会にあって、校章の野ばらのごとく「清らにつつましく、踏まれても、刈られても、たくましく、美しく」生きていく意欲と感性豊かな人間の育成に努め、生徒一人ひとりの知的・道徳的・芸術的・身体的な能力を最大限に伸ばし、調和のとれた人間の形成を図る。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	生徒の主体性を引き出すような授業改善のさらなる工夫が必要である。理解力に差のある生徒が増えてきた。	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努める。ICT活用を促進し、学力に応じた指導方法の工夫に努める。また、医療・看護コース開設に向けて、プランニングを図る。
生徒指導	協調性・社会性に富んだ生徒も見られるが、基本的な生活習慣が身に付いていない生徒、ルール・マナーの欠如した生徒が増加している。	規律ある生活と規範意識、さらに自立性に優れた人格の育成に取り組む。
進路指導	国公立・私立大学への進学希望者が多数いると同時に、短大・専門学校への進学希望者、また就職希望者もあり進路希望が多岐にわたる。各学年団が中心となり、細やかで組織的な指導を実施している。進学者においては、看護・医療系の学科への志願者の増加、総合型選抜・学校推薦型選抜での合格者増加の傾向がみられる。	キャリア教育をより充実させ、生徒一人ひとりの職業観・勤労観の育成を図る。進路実現に向けて、個に応じた学力向上の指導を継続させていく。
特別活動	社会状況の変化を背景に、社会体験の不足や集団のために働く意欲の低下などが顕著になっており、好ましい人間関係を築けないことや、望ましい集団活動を通じた社会性の育成が不十分な状況が見られる。	生徒会活動やHR活動、部活動、ボランティア活動を一層活性化させ、自主的・主体的態度の育成を図る必要がある。キャリア・パスポートの活用により、生徒の今後の人生をつくる「道しるべ」となるようにする。
保 健	健康管理ができず本来の力を発揮できていない生徒がいる。昨年度はコロナ関係の出席停止扱いの人数が目立ち、対策が必要である。また、学校での人間関係や家庭環境に起因する心身の不調により、登校が難しくなる生徒が増えている。それに伴い、保健室に来室する生徒、スクールカウンセラーとの面談を希望する生徒も多い。環境整備面では、教室内の整頓はできてきたが、個々の机の中やロッカーの中の整理整頓ができない生徒が見られる。	自己の健康について関心を持つように、保健だよりの活用や教科との連携を図る。登校届を有効に活用する。保健室や学年・担任相互の緊密な連携により、生徒の現状を把握する。また、スクールカウンセラーとの連携を深めるとともに、予防啓発的な活動も積極的に行っていく。清掃の徹底を図り、学習環境の整備に生徒が自ら積極的に取り組む姿勢を育てる。
渉 外	保護者のPTA行事への参加・関心が低い。	保護者のPTA行事への参加を促し、関心の高揚に努める。
情 報	校務や学習指導のための情報機器等を整備する必要がある。	P C等の整備（廃棄を含む）とG I G Aスクール構想を推進する。
働き方改革	業務全体の見直しを行うことにより、教職員の在校時間を削減することが必要である。	教職員一人一人が、業務の見直しと在校時間の削減に取り組むことが不可欠である。短時間で効率的な部活動を実施できるようにする。

4 中期的目標

- 1 学力増進と進路指導の充実・強化を図り、生徒の適性、能力、希望に応じた進路指導の実現に努める。
- 2 基本的な生活習慣を確立し、自主的な態度の育成を図り、意欲的に学習活動に取り組み、自律的にして責任ある生活態度の育成に努める。
- 3 HR活動、生徒会、各種委員会や部活動などの特別活動を総合的に振興し、自主的で活気のある校風の下、心豊かな人間の育成を図る。
- 4 国際社会を理解する機会の創出と、英語を用いたコミュニケーションを展開する手法の研究に努め、学校の教育活動全体を通じて国際理解教育を推進し、国際社会に生きる人間の育成を目指す。
- 5 活力と魅力ある学校づくりを推進し、働き方改革を促進するための教職員の業務の見直しに努める。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
1 中卒者数の大幅減に対応するための戦術を練り、更なる戦略的広報活動を展開する。	① 「本校を知ってもらって、来てもらって、見てもらって、体験してもらって、受けてもらって、入ってもらって」という一連の流れの中での広報活動を実践する。 ② 「地域の中の学校」として、地域に向けた情報発信力を高め、中学校への出前授業などをとおして、本校の魅力と特色を一層強く打ち出し、受検生の獲得に努める。
2 個に応じた教育を推進し、確かな学力の定着を図り、進路実現に導く。	③ 「主体的・対話的で深い学び」の実現及びタブレット・電子黒板等のICTを活用した授業改善に努める。 ④ 公開授業や相互授業参観の実施など、学習指導の質的向上を目指した校内研修体制の充実を図る。 ⑤ 学び直しや基礎学力の定着を図り、自ら意欲的に進路実現を目指す生徒の育成に努める。 ⑥ 生徒と向き合う時間の確保に努め、適切な助言指導力の向上を目指す。 ⑦ 「チャレンジ・プロジェクト事業」を通して、生徒に寄り添った体験学習を実践し、進路意識の高揚に努める。 ⑧ 令和4年度からの新学習指導要領及び看護・医療コースに向けた新教育課程の確定。 ※数値目標①（進路希望決定率100%） ※数値目標②（インターンシップ参加者20名以上）
3 基本的な生活習慣の定着と規範意識の高揚を図り、自己の確立を目指す。	⑨ しとやかな身だしなみに基づき、温順に快活な生活習慣を身に付けさせる。 ⑩ 清らかに美しく生活するために、全員清掃による美化活動に努める。 ⑪ 集団の一員としての自覚を高め、他者と協働しながら課題に挑戦して解決することができる力の育成に努める。
4 特別活動の活性化を図り、豊かな人間性を培う。	⑫ 自主的・主体的な部活動や生徒会活動を奨励し、心身共に調和のとれた生徒の育成に努める。 ⑬ 共に学び、共に汗をかく「師弟同行の精神」を貫く。
5 国際理解教育を推進し、国際人としての素養の涵養に努める。	⑭ 英語によるコミュニケーションの機会を積極的に創出し、英語を使いながら学ぶ体験的な学習方法の確立を目指す。 ⑮ 英語を学ぶ・英語で学ぶ・ともに学ぶ姿勢で、「おもてなし英語」を身につけさせる。 ⑯ 海外短期留学や外国からの留学生との交流を通して実践的コミュニケーション力育成と異文化理解の促進に努める。 ※数値目標（年間英検受験者数：2級40名以上、準2級100名以上）
6 活力と魅力ある学校づくりの推進に努める。	⑰ 県立学校改革基本プランに沿った継続的検討を進める。 ⑱ 働き方改革を促進するため、教職員の業務の見直しに努める。 ⑲ 「県立日立第二高等学校の部活動に係る活動方針」に従い、安全に、短時間で効率的な部活動を実施する。